

## 成果検証報告書

## 【成果指標の達成状況】

成果検証実施年度 令和3年度

市町村名	新座市					
提案事業名	ブラジルオリンピック選手団の事前トレーニングキャンプ誘致&オリンピック・パラリンピック気運醸成事業					
事業期間	平成31年度		～	平成31年度		
成果指標	(成果を検証する指標) オリンピック・パラリンピック気運醸成事業への参加人数					
	(成果検証の具体的な方法) オリンピック・パラリンピック気運醸成事業への参加人数の増加を分析する。					
	(成果の目標値に対する実績)				達成度	A
	従前値 (平成31年3月時点)	4,000人	目標値 (令和2年3月時点)	5,000人	実績値 (令和2年3月時点)	20,461人
	(施設建設等の場合の実績)					
	年間利用者数 (人)	(目標) (実績)		稼働率 (%)	(目標) (実績)	
住民への公表状況 及び特記事項						

## 【事業効果の整理・原因分析】

平成31年度 構成事業

構成事業名	事業効果	事業効果の概要及び原因分析
① 新座市総合運動公園陸上競技場投てき用サークル改修	○	ブラジルオリンピック選手団が使用する投てき用サークル(4か所)を改修した。令和3年度に実施されるブラジルオリンピック選手団の事前トレーニングキャンプで活用される予定である。
② 志木駅南口駅前広場公衆無線LAN設置	○	観光振興、防災対策、市民の利便性向上のため、公衆無線LANの整備(1か所)を行った。駅前広場の大屋根の設置工事も完了し、来訪客の利便性の向上に繋がった。
③ 新座市総合運動公園公衆無線LAN設	○	観光振興、防災対策、市民の利便性向上のため、公衆無線LANの整備(1か所)を行う。ブラジル選手団の来訪時には、選手団がWi-Fiを活用することができた。
④ 栄公民館トイレ洋式化事業	○	和式トイレを洋式トイレ化する工事等を実施した。令和3年度に開催される東京2020大会の際は、常駐するスタッフや会場を訪れる観客により活用される予定である。
⑤ 東京2020大会(オリンピック)に関連する写真展と音楽鑑賞講座	○	芸術鑑賞の機会を市民に提供することにより、芸術に対する意識の高揚を図るとともに、オリンピック・パラリンピックの持つ文化側面的意義の周知啓発を図ることができた。
⑥ 市民総合大学公開講座におけるアスリート講演会	○	パルセロナオリンピック射撃銅メダリストの木場良平氏の講演会を市民総合大学公開講座として実施し、参加した市民の大会気運の醸成に繋がった。
⑦ ビームライフ体験会(パラ射撃の周知・啓発)	×	実施予定であったが、台風19号の影響により事業自体が中止となった。
⑧ ブラジルテストキャンプに合わせた交流事業	○	ブラジルオリンピック選手団のテストキャンプに合わせて市民との交流事業を実施する際の啓発品として、オリジナルピンバッジ1,000個を作成した。キャンプに参加いただいたボランティアに参加記念として贈呈し、キャンプへの気運醸成に繋がった。
⑨ 市内イベントでの大会PR事業(新座市キャッチフレーズの周知)	○	新たに決定した新座市キャッチフレーズの啓発品(うちわ)を作成した。オリパラPRブースで配布したことで、射撃会場であることや事前トレーニングキャンプ地であることのPRに繋がった。

⑩ 市内装飾による気運醸成（シティドレッシング）事業	○	大会の周知や祝祭感の演出を目的として、市庁舎にエレベーターラッピングや壁面装飾などの装飾を実施した。来庁する市民に対し、本市が射撃会場であることや事前トレーニングキャンプ地であることのPRに大きく貢献した。
----------------------------	---	---

## 【成果検証の総括・改善策の検討】

実施事業について 十分に成果が認められた点	事業⑩の市庁舎への装飾については、大々的に実施することができ、市民だけでなく他市からの来訪者に対する周知に繋がった。また、イベントの実施と合わせて啓発品を多く作成したことにより、幅広い年代に射撃会場であることや事前トレーニングキャンプ地であることを周知することができた。
実施事業について 成果が不十分である点	事業⑦については、台風の影響によりイベントの開催自体が中止になってしまった。その他の事業については十分に実施することができた。
成果検証を踏まえた 今後の改善策	オリンピック・パラリンピック事業については、新型コロナウイルスの感染拡大に伴いイベント等の実施ができない状況ではあるが、可能な範囲で引き続きPRを続けていく必要がある。また、これまで実施してきた事業の成果を大会終了後も持続させるため、レガシー等についても検討を進める必要がある。

(記入上の注意)

## 【成果指標の達成状況】

・達成度(A・B・C)の判断基準は次のとおりとする。

「達成度A」 目標値に対する実績値の伸び率が80%以上の場合

$$\text{実績値} \geq (\text{目標値} - \text{従前値}) \times 80\% + \text{従前値}$$

「達成度B」 目標値に対する実績値の伸び率が60%以上80%未満の場合

$$(\text{目標値} - \text{従前値}) \times 60\% + \text{従前値} \leq \text{実績値} < (\text{目標値} - \text{従前値}) \times 80\% + \text{従前値}$$

「達成度C」 目標値に対する実績値の伸び率が60%未満の場合

$$\text{実績値} < (\text{目標値} - \text{従前値}) \times 60\% + \text{従前値}$$

## 【事業効果の整理・原因分析】

・事業効果(○・△・×)の判断基準は次のとおりとする。

「事業効果○」 事業効果の発現が十分に認められる

「事業効果△」 事業効果の発現が多少認められるが、不十分な点がある

「事業効果×」 事業効果の発現がほとんど認められない